

児相や警察の対応に一石

阿部前監督の長女暴行容疑事件

長女(18)への暴行容疑で、プロ野球巨人の監督だった阿部慎之助さん(47)が逮捕された。長女が対話型の生成人工知能(AI)に相談し、回答結果に基づき児童相談所へ連絡。通報を受けた警察が逮捕した。公表された長女の手紙には「意向を聞かれなかった」とつづられ、児相と警察の対応への戸惑いが見られる。積極対応が求められるとはいえ、専門家からは「相談者の希望をより丁寧に聞き取る必要があった」との指摘が上がっている。

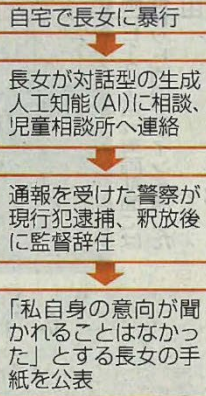
捜査当局は「緊急性高い」と判断

丁寧な聞き取り必要」指摘も



取材に応じるプロ野球巨人の阿部慎之助前監督。左は長女の手紙を読む代理人(26日、東京・大手町)

巨人・阿部慎之助前監督逮捕までの流れ



※球団の説明などによる

児相が「父親から暴行を受けた」と110番したのは、25日午後7時10分ごろ。阿部さんは駆け付けた警視庁渋谷署員に現行犯逮捕された。長女は手紙の中で「父が警察に連行された姿を見て、泣き崩れた」と振り返っている。阿部さんは26日未明に釈放された。同日中に監督を辞任し、仲で、一緒に食事に出かけた。

球団などによると、姉妹のけんかを止めようとした際に長女に言い返されたため、投げ飛ばしたという。当時、飲酒していた。長女にけがはなかった。長女自身も認されていない。長女自身も手紙の中で「父とは笑い合っただけで、一緒に食事に出かけた

りしている」と証言している。インターネット上には、児相や警察の対応を「過剰」と批判する声も。長女から連絡を受けたとみられる児相は「110番は通常の運用の範囲内で、問題はなかった」としているが、詳しい経緯は判然としない。

元児相所長でNPO法人「児童虐待防止協会」の津崎哲郎理事は、児相が虐待事案を招いた事例が相次いだことを背景に、警察と児相が積極的に情報共有する動きが広がっていると指摘。一方で、情報を得た警察が相談側の意図を超えて動くこともまれにあると明かした。

捜査関係者によると、児相の通報内容から「緊急性が高い」と判断して現場に駆け付け、暴行の事実が確認されたため、逮捕した。こうした「人身安全関連事案」では、被害者の安全確保を最優先しているという。

面機関の対応を専門家はどうみるか。津崎さんは今回の事案について「長女は、警察が逮捕まですると思っていたのか」と疑問を呈し「児相はより丁寧に意向を聞き取り、相談者が何を望んで電話してきたのかを確認する必要があるのではないか」と話した。

判断の責任は通報者に負わせず

児童虐待と、児童相談所と警察の連携に詳しい鈴木秀洋日本大教授の話 児童福祉法は原則18歳未満が対象だ。今回の通報者は18歳で、本来は児相の対象外だが、夜間であることや緊急性を考慮して警察に通報したとみられる。各地で起きた虐待事件を受け、児童福祉法では体罰禁止や介入強化に関する改正が積極的に行われている。元児相所長でNPO法人「児童虐待防止協会」の津崎哲郎理事は、児相が虐待事案を招いた事例が相次いだことを背景に、警察と児相が積極的に情報共有する動きが広がっていると指摘。一方で、情報を得た警察が相談側の意図を超えて動くこともまれにあると明かした。

